

は五十戸に作りて、ヨベと唱ふるなり、足利驛の西の方十餘町許にあり、則チ上野への往還なり、新田老談記と云書に、天正十二年、小田原の北條氏政、金山の城を攻ける條に、五十戸大岩の郷人等云々とみえたり、金山城は上野國新田郡にて、新田山ニヒタヤマと古歌にもよめり、新田義貞朝臣も則チ此所に居住せり、後には由良信濃守貞治住す、

梁田郡 大宅 深川 餘戸 ともに廢す

安蘇郡 安蘇 説多 意部 麻續

安蘇説多、意部ともに廢す、麻續は存す、今は小見に作る、佐野天明驛の北の方にあり、さて麻續の續は續の誤りなり、

都賀郡 布多 高家 山後 山人 田後 生馬 秀文 高栗 小山 三島驛家

布多廢す、或人は二荒山を布多の荒山ならむかといへど、おぼつかなし、高家存す、今は武井に作る、家と井とは假字たがへど、後世にはかゝる例數多あり、和名抄中、佐渡國の郷名にも高家あり、て、假字多介倍とあり、さて武井は栃木驛の南の方にあり、山後山人ともに廢す、田後は存す、今は田尻に作る、是は栃木の西北の方にあり、生馬存す、今は生駒に作りて、寒川郡に屬す、小山驛より佐野への往還筋なり、秀文は委文の誤にて、シトリなり、今は志鳥に作りて、太平山の西北の方にあり、高栗廢す、但し東大寺要録に高栗と記したれば、もし田川にてはあらざるか、さらば今川の名に田川あり、よく考ふべし、小山存す、奥道中の驛家なり、三島驛は三嶋の誤にて、今の下津原村と云所なり、兵部式に三嶋驛とみえ、また萬葉集に美可母乃夜麻とあるも、同所なり、委しくは下の名所の條にいふべし、

寒川郡 眞木 池邊 努宜

眞木、池邊廢す、努宜は存す、今は野木に作る、奥道中の驛なり、されど今都賀郡に屬す、